

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

第3回 幹事会 議事録要旨

- 1 日 時：平成22年 4月 3日（土）12時00分～14時15分
- 2 場 所：太田ジオリサーチ 大阪営業所
- 3 出席者：石川、伊藤、太田、片瀬、山田（以上5名、敬称略）
- 4 議事要旨

(1) 現状報告

① 第二回幹事会以降の動きや新たな報告について

○前回以降の動き

- ・ 幹事会発足を受けて、幹事会規約等について理事全員に早急に配信し、了解を得るよう手続きを進める。
- ・ 前回の確認事項「技術士会近畿支部建設部会や防災研究会と情報交換を図りながら、連携してNPOの活動を進めて行く」ことをあらためて確認。
技術士会とできるかぎり、情報共有が図れる進め方を考える。
- ・ 発足して間もないため、幹事会としての活動や働きかけが、まだまだ不十分であるが、会員が、それぞれの能力や技術を生かして活動できる環境づくりを進めて行く。

② 災害履歴DB作成について

○集計状況の確認

これに対する各幹事からの意見

- ・ 回答数が少ないため、DB作成の趣旨をあらためて説明し再度、依頼することを確認。

○今後の活用について

- ・ 災害発生直後の現場に行くことについては会員の持つ「技術」や「思い」などDBをもとに考えるということで今後の検討課題とする。
- ・ 現場に出向いて何が出来るかを考えておく必要がある。
何が出来るかを明確にする。
物見遊山はだめ
災害を経験した神戸市ですら被災地から要請を受けないで職員を派遣すると言ったことはしていないのが現状。
水道や下水道などは職員の派遣方法について協定が出来ているものもある。
- ・ NPOとして何時、出かけるかと言うことがポイントではないか。また何時、出かけられるのかと言うこともつめておかないといけない。
- ・ 災害直後でなくても、その後に現地に入り、現場状況等を他の人々（たとえば、自主防災組織など）に伝えていくのがNPOとしての重要な活動である。
- ・ NPOの果たすべき役割として行政と市民の間を「つなぐ」と言うことがある。この場合の市民としては不特定多数の市民を相手には大変である。マンパワーの面から自主防災組織規模の組織がちょうどいい相手ではないか。
- ・ 基本としてボランティアであることを認識しておくべきである。ボランティアとして何が出来るかを、何らかの形で社会貢献する、会員の思いを生かすと言うことを念頭にDBの生かし方を考えていくべきである。
- ・ 土木学会や地盤工学会などへの依頼とは次元が違うし、NPOに対して災害現場の調査依頼などが来ることは考えられないと考える。

(2) 今後の活動に向けた検討

① 震災対策技術展に対する取組について

- ・震災対策技術展において当NPOが参画しているイベントに関して、その内容を当幹事会から積極的に企画、立案に向けた提案を行なうことが課題。
- ・今後も情報収集に努め、何ができるかを検討していく。

② 自治体とNPOとのネットワーク形成について

○ 従来の取組

- ・NPO活動の目標の一つに自治体とのネットワーク形成があり、近畿管内の関係自治体や地方整備局などと協議を進めてきた経過がある。しかし行政間においてはオフィシャルの話として連絡網の整備や情報共有が一定、図られており、あらためてNPOが入り込んで、ネットワーク形成の一翼を担うのは困難な面もある。
- ・何を目指しているのかといった目的を明確にする必要がある。

○ 最近の取組事例

- ・自治体とのネットワーク形成の新たな取組の一つとして当NPOのメンバーの仲介による神戸市（K-T E C）と京都市技術職員との意見交換会の実施事例を紹介。

（概要）

内 容

神戸市職員現役とOBから震災当時や復旧、復興時の状況や体験を聴取するのが主体となったが、マスコミや書面では聞けない「生の声」を聞くことができ大きな収穫を得ることができた。

今後も継続的かつ定期的に両市の意見交換会を開催する予定。

(3) 研修会等の内容検討

① 研修会の具体的な検討

- ・検討対象として現時点で二つ。一点目は水災害の検討を目的としてWG-Eの立ち上げに向けた動きがある中、キックオフに向けて水関係の専門家から研修を望むもの、2点目はNPOの活動全体に関わりがあり、会員が備えておくべき能力として求められる「リスクコミュニケーション」に関するもの。

○ 水災害に関するもの

- ・河川行政や最近の治水の考え方である「総合治水、流域治水」に関する話を聞くには適任ではないか。

市民目線で物事を考えると言う立場はNPOの立場と同じ方向であり、このスタンスで講演内容を絞り、話をしてもらえば役に立つし、興味や期待感もある。

講演内容については最近のゲリラ豪雨頻発を念頭に都市型水害対策を主体とした話を依頼する。

○ リスクコミュニケーションに関するもの

- ・（前回の続き）理事長から異分野の科学者や技術者との連携が必要とのご示唆を受け、社会心理学の分野の方からリスクコミュニケーションに関する講演を依頼したらどうかとの提案がある。
- ・水災害に関する講演の具体化を先に進め、本件の具体的な内容については今後、継続して検討していくことになる。

(4) その他

- 総会に備えての準備等に関する幹事会の役割、関与について協議。